

## 羊蹄山 ファームハウス

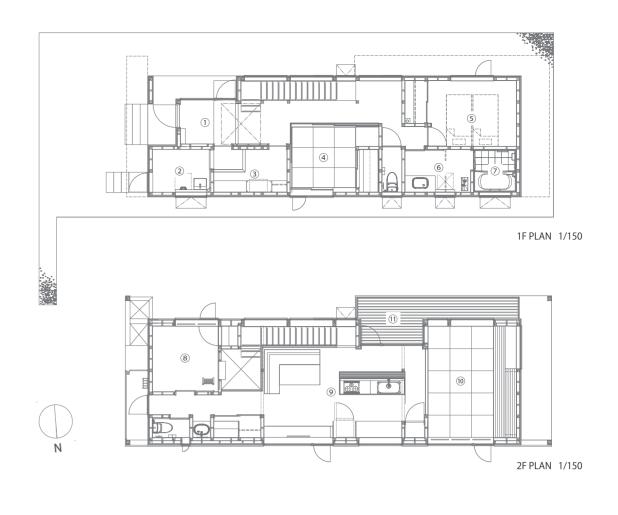
敷地は北海道後志地方倶知安町の田園農地の中に位置する。南側に羊蹄山西側にニセコアンヌプリの山並みを望むロケーションに恵まれた環境で、じゃがいもの畑がゆるやかな傾斜で山並みにつながっており、北側に接道している。この住宅はこの地で農業を夫婦で営む 親子3人の為の住まいである。計画にあたり日々の農作業に対応した職住一致と多雪に対応した住宅環境の確保と、一つ屋根の下で家族の気配が感じられる暖かい住まいが求められ、この地で職住するにふさわしい姿を考えた。

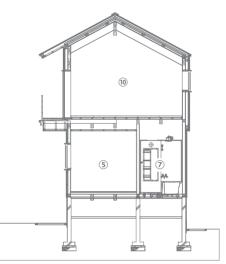
冬期の屋根からの落雪を考慮し、恵まれたロケーションを年間楽しめる 2 階を居間のある主階とし、落雪をふまえた屋根型は木造の登り梁の表しで三角形の屋根型を内部空間とし、外断熱とすることで木梁に包まれた一体的空間を実現した。

この地域は年間積雪量が 1.93m、年間降雪量が 12.64m を越える豪雪地帯で、住宅を考える上では屋根形状は傾斜屋根として、自然落雪できることが前提となる。南側の壁面は大きな開口部が 1 階に集まる為壁面を軒より 900mm 後退する事で落雪による開口部への直接 の影響を緩和している。 1 階の床レベルは地面より 600mm 以上上がったレベルとして冬期の積雪に対応して高くしている。

三角形の矩形が木板の箱に重なっている構成となっているが耐久性の高いメンテナンスフリーの金属仕上を2階とし、万が一のメンテが容易な木部を1層とした。無塗装の木板は経年変化で灰色となり基礎のコンクリートと一体化し、冬期の積雪で北側の道路につくられる雪の山の上に黒い三角形の家形が、吹雪の中でも白銀の世界に浮かびあがる存在感を目指した。

冬の季節には雪で全てが覆いつくされる環境の中で確かな家の存在が家族にとってなによりも大切な事と考えた。





⑥ ユーティリティ⑦ バス

8 キッズルーム 上部 ロフト9 ダイニングキッチン

エントランス
 ストアルーム
 シューズクローゼット
 ゲストルーム
 ベッドルーム

⑩ リビング

⑪ デッキテラス

1階には一般用玄関と農作業で汚れた靴でも手軽に出入りできる作業用玄関を設けた。

SECTION 1/150

一般用玄関から南に面した羊蹄山と緑の畑を望むテラスにつながり、この広い土間玄関が隣接した客間も含め 通年楽しめる広くて大きなつながりのある第2の居間的な空間となる。

2階は居間・厨房・食堂・子供室が配置され、三角屋根の中で緩やかにつながり視界が周辺の山々の風景を望む構成となっており、特に食卓からの風景は3方向に拡がる山並みの風景を望むことができ気持ちの良い空間となっている。



① 畑越しに南側立面を望む
② 階段室から羊蹄山を望む

